

# 有用海藻養殖企業化試験(コンブ)

担当者技師 高橋邦夫  
〃 青山禎夫

## I 調査目的

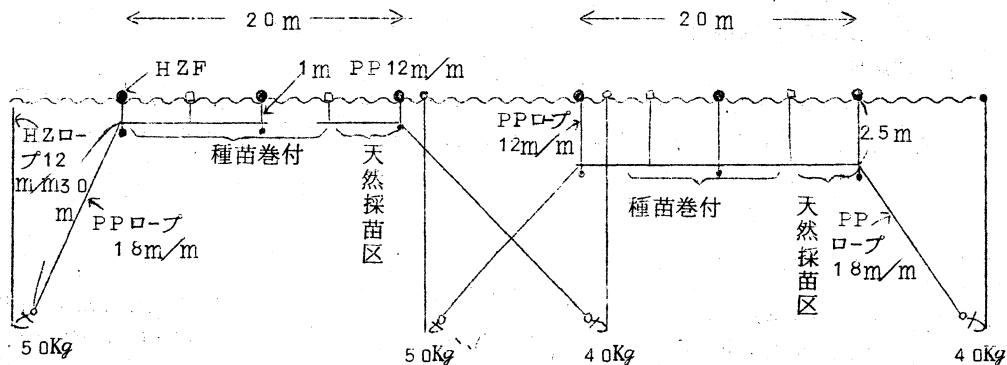
本県の有用海藻であるコンブをとりあげ、経済効果を高めるための養殖技術を追究し、養殖業としての安定化を図る。

## II 調査内容

- (1) 調査場所 八戸市鮫町
- (2) 調査期間 昭和42年11月～全43年3月
- (3) 調査項目 生長、歩留、収量養生状況、施設の耐波性
- (4) 調査方法

第1図の施設に青森市海藻類採苗場の種苗(マコンブ原産地函館)を巻付けにより分散し、42年11月28日、鮫地先、水深8m、底質砂泥地に設置した。種苗の大きさは顕微鏡的なもので、生長調査は1月10日、2月3日、3月5日、3月27日の4回に分けておこなつた。

第 1 図



## III 調査結果及び考察

### (1) 生長

1月、2月は波浪のため、一部の観察にとどまつたが、1月は3～4cmのものが揃つて着生しており、2月では、養殖深度1mで最大5.2cm、深度2.5mでは4.4cmで、葉長が3.0～4.0cmに生長していた。3月は標本を採取して、葉長、葉巾を計測した。

この結果は第2図に示したとおりである。

分散時の種苗の大きさは顕微鏡的なもので、葉長0cmとし、3月27日までの生長率をみると養殖深度1mの最大値で1.35cm/day、深度2.5mでは1.26cm/dayであつた。又大型葉長群の平均値についてみると1.02cm/dayであつた。

## (2) 着生状況

天然着生をみるとため、種糸を巻かない部分を設けたが、天然着生はみられなかつた。しかし、同一漁場に設置されているワカメ養殖施設のポリエチレンロープには着生しているところから、着生基質に原因があるようと考えられる。一方種糸を巻いた部分にはコンブが密生しており、3月5日の調査では養殖深度1mのもので、葉長10cm以上の個体数は770本/m、深度2.5mでは545本/mで極めて密植状態にあり、このため3月27日にm当たり150~200本程度に間引した。

## (3) 収量

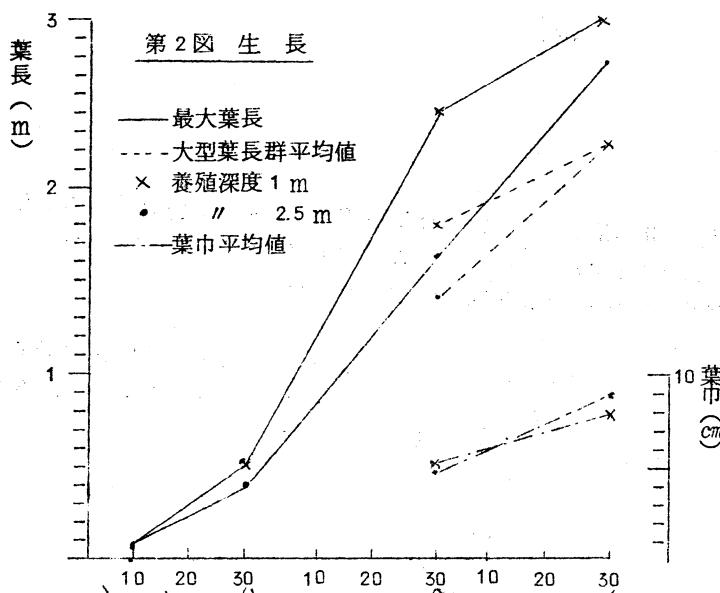
養殖コンブの収量調査を7~8月におこなう予定で、これまで実施していないが、3月27日の生長調査の際に、密植になつてゐるため間引したコンブの重量は、養殖深度1mで生39Kg/15m、深度2.5m 18Kg/15mであつた。

## (4) 歩留

歩留調査は3, 5, 7, 8, 9月を予定しており、ここではこれまでにおこなつた3月27日の結果についてみると、養殖深度1mでの平均歩留は9.7%，2.5mでは11.4%であつた。また、ワカメ養殖施設に着生した天然養生コンブの歩留は、12.7%であつた。養殖深度が浅い方の歩留は大きいものと予想していたが、今回の結果では水深2.5mでの養殖の方がよかつた。これは元来このような傾向を示すものかどうか明らかでないが、芽数と歩留との関連があるので、或いはこの方が強く影響していることも考えられる。この意味では、芽数の最も少いワカメ養殖施設のコンブの歩留が良いことも首肯できる。

## (5) 耐波性

養殖の途上であり、充分コンブの生長した場合の耐波性については、今後の経過の観察にまたなければならないが、ワカメ養殖の経験や、これまでの施設状況からみると殆んど問題はないようにみうけられる。



(註)養殖継続中の施設については、5月16日発生した十勝沖地震に伴う津波の際、同漁場に設置されていた10数台のワカメ養殖施設が流され、これがコンブの施設に纏絡したため、施設の流出は免れたが着生したコンブはすり落され、その後の調査ができなくなり調査を中止した。